

平成29年度 森林環境教育（森林ESD）活動報告・意見交換会 活動報告事例

事例	団体名	プログラム概要
	プログラム名	
	活動場所	
H29 1	すみだこども園 橋本ひだまり倶楽部（和歌山県）	和歌山県橋本市運動公園「ひだまりの郷」を活用した体験。 4歳児 ・ひだまりの郷の森の探検 ・木工体験 くまさんペンダント ・絵本、紙芝居読み聞かせ、発表 5歳児 ・ひだまりの郷の森の探検 ・竹の間伐、貯金箱作りなど ・絵本、紙芝居読み聞かせ、発表
	・森とともだち～自然の中で共に育ちあう～ ・「みつけて ふれて わくわくドキドキ!!」 森あそび保育実践プロジェクト 和歌山県橋本市 ひだまりの郷内	
H29 2	森のようちえんウィズ・ナチュラ 明日香森林環境教育フィールド Forest River（奈良県）	森のようちえんウィズ・ナチュラは、明日香森林環境教育フィールド「Forest River」が管理する複数の里山をメインフィールドとして、野外での保育活動を行っている。職員・保護者も里山整備を手伝い、野外保育の活動場所と一緒に整備をしている。体験活動としては、田植えや稲刈り体験、しいたけ菌打ちや野菜や果実の収穫体験、餅つき、竹灯りイベント、森林整備体験、草刈り、カマド設置などを行い、里山整備や環境教育イベントで交流を深めている。
	森のようちえんから広がる、里山の人・世代・未来 奈良県高市郡明日香村栢森	
H29 3	森のようちえん ことこと 木こりの会（岡山県）	木こりの会の活動フィールドで、子どもの保育を実施している。森のようちえんのスタッフが「木こりの会」の会員になり、木こりの会の活動地で、森林整備に参加。森のようちえんの活動場所としても利用している。子どもの保護者なども応援を得て、里山整備活動を活性化していきたいと考えている。活動は、里山での活動、川での活動、たき火・野外炊飯、雪遊びなど
	津山 森のようちえん ことこと 岡山県津山市神代 久米山	
H29 4	公益社団法人 京都市保育園連盟 八瀬野外保育センター 京都市内の保育園・幼稚園	京都の保育園、幼稚園の園児が遠足や宿泊保育に利用している。遠足で遊びに来た園児に、山で見ることのできる草木、花、生き物を紹介し、山での注意事項を説明し、楽しく自然の中で遊んでもらうことを心がけている。 (パネルのみ、分析シート無し)
	幼児に土と緑を 京都市左京区八瀬	
H29 5	吉野町教育委員会・町立わかばこども園 森林インストラクター（奈良県）	吉野町内で育つ 0～15歳の子どもたちを対象とした、「木育」宣言をする吉野町の取組。 吉野町わかばこども園（3～5歳児）は森林インストラクターや地域おこし協力隊と連携・協働して、吉野の森や神社等をフィールドに「森と遊ぼう」という園外活動を年に5回程行っている。
	わかばこども園「森と遊ぼう」 奈良県吉野郡吉野町	
H29 6	橋本市立清水小学校 橋本ひだまり倶楽部（和歌山県）	和歌山県橋本市運動公園「ひだまりの郷」を活用した体験。小学校4年生で、木工体験、森林体験、間伐体験、釜戸ご飯の体験などを通して、自然環境について考えることができてきた。橋本ひだまり倶楽部では、森林整備のボランティアや子ども達に森林体験活動を行っている。
	・郷土の森の森林体験からふるさとの自然を考えよう ・子ども力（こどもりょく） 小学生だって竹林整備!! 和歌山県橋本市 ひだまりの郷内	
H29 7	土地に根ざした学びの場・まるやま組 輪島市立三井小学校（石川県）	まるやま組が地域の活動の中で得た成果を、子供達へ伝えるために、2012年より三井小学校で、里山で行うプログラムを連携して行う。2016年からは、森林を軸に校区内の地域住民（林家、農家、紙漉き職人、輪島塗職人、製材所、庭師、生態学者、染色家など）を先生に、野外で五感を使って体験する取組を企画運営している。 地域住民にとっても、子供達に伝える機会を持つことで喜びや生きがいを感じている。また、小学校を中心に地域の企業、大学、行政などが連携している。
	よぼし子の森 ～ムラからマチへつながり、かかわり、ひろがる～ 石川県輪島市三井町	
H29 8	箕面市立止々呂美小学校（とどろみの森学園） NPO法人とどろみの森クラブ（大阪府）	とどろみの森学園は、中学校と小学校の小中一貫校で、1年生から8年生まで近くの里山で活動を行っている。 地元のNPO法人とどろみの森クラブと連携して、里山散策やクラフト、里山学習や里山保全など、学年に応じた活動を展開している。
	里山体験学習 大阪府箕面市森町	

事例報告 H29-5

団体名： 吉野町教育委員会・町立わかばこども園（奈良県）
森林インストラクター

プログラム名： わかばこども園「森と遊ぼう」		
(1) プログラムの目標	わかばこども園のもつ教育資源（自然環境・地域人財力・幼稚園型施設としてのこれまでの実績等）を活用した取組を通じて、ふるさとに対する理解や愛着を深め、将来にわたって地域を大切に作る気運を醸成する。また本町の「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取組（木育）のひとつの実践の場として、森と水の関係の理解を通して本町の地勢的特性である豊かな河川・森林とふるさとの歴史・文化・産業の関わりを森での遊びを通じて学ぶきっかけをつかむ。 子供達が、年齢の垣根を越えて意図的に交流できる場をつくり年下の子供は、年上の子供の活動を見て学び憧れを抱き年上の子供は年下の子供の世話をし、教えることに自信をもち、思いやりの心を育てる。社会性や協調性を自ら学んでほしい。	
(2) プログラムの概要	これまで、わかばこども園区に在住されている森林インストラクターと保育教諭が連携して実施してきた本園の「森と遊ぼう」活動は、平成29年度は、本町の地域おこし協力隊4名（木工担当・木育担当）の活動支援を受けることとなり、園との連携の輪が広がっている。吉野の四季の移ろいにあわせて、年間5回にわたり園外活動として実施。インストラクターのドイツでの森の幼稚園のお話から始まり、七夕まつりに使う笹竹取りで森に入り、また「森の不思議を感じよう」をテーマに地域の森でふるさとの昔ばなしを聞いたり、園児みずから拾い集めた自然物を使ってのネイチャークラフトづくり、年長児は活動を通して感じたことを森の中や園内で友達や保育教諭に発表するふりかえりを取り入れたプログラムとなっている。	
(3) プログラムの展開		
時間数	プログラムタイトル	
	活動内容	指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
in、about、for の視点で活動内容を区分		
年間計画 3時間 活動打ち合わせ 2時間×5回 下見 2時間×5回 計23時間	森と遊ぼうのための準備 森林インストラクターとの打ち合わせ 地域おこし協力隊との打ち合わせ インストラクターとの現地見 年間活動プランのテーマの共有 	保育教諭に森と遊ぼうについて理解してもらう。 下見により、森林体験が少ない保育教諭に実体験させる安全対策として服装や支援児童への配慮など注意すべきことを互いに確認 プログラム実施の役割分担を明確化 当日の服装等の保護者への注意喚起・当該活動への理解・情報共有
	about 情報の共有、安全対策	
約30分×5回 計2時間半	森と遊ぼう プロローグ 森のおじさんのお話 森林インストラクター・協力隊の森と木のお話	活動連携者との出会いを森と木の話を通じて園児に印象づける。 保育教諭は、活動連携者の話を日常の教育保育活動へ結びつけながら、はじまろうとする園外活動への期待の高まりが伴う森への関心を引き出す。 
	about 子供達へのファーストメッセージ 森への誘い 対話	

約1時間半×3回 約4時間×2回 計12時間半	森と遊ぼう	プログラム中に設定された設問内容の活動 補助者による語りかけ 気づきを言葉に表現して質問 森でのクラフト・ゲームの展開	活動補助者が指導する。保育教諭は、子供達が表現すること（かたち・言葉）を深く観察し、個々の気づきを全体で共有させる機会を逃さない。 個々の子供達の気づきを大切にする。
			

in 森の中での体験

2時間×5回 計10時間	ふりかえり	保育教諭と活動連携者との活動のふりかえり	森と遊ぼうの活動後に活動全体の良かった点や改善点についての話し合い、情報共有をすることで、より良い活動にしていく。保育教諭と活動連携者との活動への想いの確認、活動のねらいの共有。
	about 森と遊ぼうの分析 情報交換 討論		

	園内活動とのつながり	年中行事との接続（七夕まつり：園内活動で、飾り短冊づくりを行い、飾りための笹を森から切り出す等） 森で採集した自然物と木片を利用した作品づくり	園内活動と園外活動の接点を上手く生かして、森の中での子供達の内的心象の継続を図り、定着化をおこなう。 園外活動で得た素材を使った園内活動での表現活動の更なる展開。
			

for 森の中での体験を園内活動に活かす

（４）プログラムでの連携内容

（教育機関、地域、団体等での、①連携・協働先、②役割分担、③具体的な連携・協働の内容）

①森林インストラクター ②専門的領域からの保育教諭、園児への助言・指導／地域住民としての教育保育活動への参画 ③プログラムづくりへの参画・地域の教育資源活用への働きかけ、連携コーディネーター／所有林の提供／フィールドの整備・安全な環境の維持

①地域おこし協力隊（木育・木工担当） ② 園外活動の支援／森や木に関わる園児へのメッセージ／専門的領域から保育教諭の木育への助言・園内活動の支援 ③ 園外活動の安全確保への支援／プログラムの多様な展開を可能とする各専門領域でのノウハウ提供



(5) 活動の分析 (学習指導要領との関連または森林環境教育の視点) 上位3項目	
教科・項目、視点	学習内容
1 感性的経験	「森林の感性的把握・美的把握」 足から伝わる土の柔らかさを歩きながら感じ、森の中でハンモックに揺られて木漏れ日を見上げ、川に手をつけ水の冷たさに驚き、山の頂上からの景色を見て、自然の心地よさや自分たちの育つふるさとの美しさを感じる。
2 自然的特性	「地域環境への関心・森林体験」 身近にある森に入り、吉野では昔から山や木と人が寄り添って生きてきた歴史があることを肌身で感じ、自然環境と人との関係についての関心を高める。 (山に入る時は山の神様に挨拶をする) ハンモック・竹の滑り台・丸太のシーソーなどの森林体験があることで、森のおじさんの話(木の特徴や自然の生態について)をより興味を持って聞くことができる。
3 多面的機能	「暮らしの中にある森での体験と、園内活動への広がり」 園児が採集してきた自然物を使った製作や、園内の木工コーナーの設置など、園内で日常的に森や自然を感じられるような環境づくりがされている。園では森での体験とは違い、作りたいものをイメージする想像力や、試行錯誤し作り上げる集中力が培われる。またものづくりの中から生まれた異年齢の園児のコミュニケーションなどもあり、森と遊ぶ活動が多面的な機能を持っている。
(6) 活動の分析 (資質・能力の視点)	
項目	ESDの要素(7つの能力・態度)の視点で見つめ直して、もっとも重視する視点の内容を記載してください。
①生きて働く「知識・技能」の習得	「3 多面的・総合的に考える力」 森林インストラクターから、ふるさと吉野の昔のことや、自然の生態や特徴について話を聞く。 また、その時にイラストを使ったり、体験を取り入れることで子どもが興味を持てるようにする。 道具(のこぎり・金づち・ドライバー・釘・ビス)の扱い方を習得する。 自然の知識や、道具を扱う技能を、体験を通して学び、園外・園内のどちらの環境においても子どもたちが身近に感じられるようにすることで、ふるさとの自然と自分たちの暮らしについて多面的・総合的に考えるようになる。
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成	「4 コミュニケーションを行う力」 様々な素材を使い、表現を仕方を考え工夫して作ったものを、友達や保育者の前で発表する。 年長児は園内に設置された木工コーナーで木片を利用して作ったピタゴラスイッチ(どんぐりを転がすゲーム)を友達同士で相談し合い、どうすればうまく転がるコースができるかを考えて製作していた。 さらに、それを小学校1年生との交流会で発表し、自分よりも年上の児童と一緒に遊び、意見をもらうことで新たな課題や発想力を得た。
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養	「7 進んで参加する態度」 森林インストラクターや地域おこし協力隊と森や木、自然に関する対話の中で興味を持ち、自ら学ぼうとする意識を身につける。 長い森の道のりを自分の足で歩ききる、高いところにある木の橋を1人で渡り切る、ロープを使って急な斜面を登るなど、成功体験を積み重ね、自らまた新しい目標設定をして挑戦する力を身につける。 年中児が木工で難しい部分を、年長児に助けをもらい、作品を完成させるといった様子が見られるように、年齢を超えた森と遊ぶを通して生まれた関係性がある。
(7) 実施後、参加者の変化	
保育教諭の中に、森と遊ぶ子供達の感動を園内活動にも積極的に取り入れようとする姿勢が生まれ、園教室内に木工ブースを設置、教室内で木とふれあう機会を創出している。	
園児に、森での森林体験のきっかけに、主体性をもった行動が芽生えている。また、園外活動と園内活動に連続性が生まれ、森への関心が日常の園生活の中で遊びの中に取り入れられている。園庭の木々にも関心が高まった。	

吉野町の木育が目指すもの

～木とふれあい、木に学び、木と生きる～

- Step1 **木とふれあう** …様々な木にふれ、木の良さを感じる。
- Step2 **木に学ぶ** …木の特徴や性質を学び、知識や技術を身に付ける。ものづくりを通して、地域資源の良さを学びます。
- Step3 **木と生きる** …木材利用や森林育成、環境保全の繋がりを理解し、地域の産業・歴史・文化・社会と自分の関わりを知る。木を通して、ふるさと吉野の愛着心を育み、互いの個性を認め、尊重しあえる人となる。

◆ Step1 から Step3 までを循環させて『生涯木育』を目指します。

吉野町で育つ子どもたちは年齢に応じた木とのふれあいを積み重ねています。
木でつながった人々が、さらに周りの人と木にふれあうことで
木のまち吉野町の木育の輪を広げていきます。

ファーストイブプレゼント

生まれた赤ちゃんに、町内の人が吉野材で作った木のおもちゃを贈ります。出生届出時に、役場でカタログと申込用紙を配布し、申込受付後、希望されたおもちゃを乳児検診の際に保健センターでお渡しします。



よしのこども園
「木と遊ぼう」

製材所の端材や、園の木製玩具、かんなくずプールなどで遊び、吉野の木にふれます。木を使った工作もします。(年に4,5回)



吉野小学校「桜の活動」

吉野山の桜の種を拾い、育てて、吉野山に植樹するという活動を学年ごとに役割分担して、学校全体で取り組んでいます。



吉野中学校
「愛 学習机プロジェクト」

吉野ひのきで作られた天板キットを、入学前の春休みに地域の大人たちと一緒に組み立てます。3年間使った天板は卒業と一緒に持ち帰ります。



子育て講座「木育」

未就園児対象にこども園で行われる子育て講座で、年に2回木育をテーマに講座をします。木のお話を聞いて、木のおもちゃにふれて親子で遊びます。



わかばこども園
「森と遊ぼう」

森でシーソーや、すべり台、ハンモックなどの遊びを通して、吉野の木や自然にふれます。木の実などの自然物を使った工作もします。(年に4,5回)



吉野北小学校
「手漉き和紙の卒業証書製作」

学校で育てた楮(こうぞ)の木の樹皮を使い、地域の和紙職人の方に協力してもらって、自分たちの手で紙を漉いて卒業証書を作ります。



ともしび
「吉中友灯工房」

吉野にある素材(杉・檜・割箸・和紙等)を活かした照明器具づくり。平成14年から取り組んでいます。



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 さい

両こども園

- 「木製玩具導入」
- 「入園記念木製メダル」
- 「卒園記念木製たて」



両小学校「木育授業」

図工の時間に吉野材や自然物を使った木工作を行います。吉野の木にふれ、木の特徴や道具の扱いを学びます。(今年度より年に1単位。吉野小1・3・5年、吉野北小1・4・6年)



吉野小学校
「製材所・割箸工場見学」

地域産業である吉野材を加工している製材所や、割箸工場を見学し、調べたことを発表します。



吉野北小学校
「森林セラピー体験」

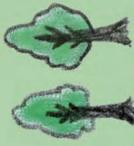
龍門岳でハンモックや川遊びなど、山や森の良さを感じて、セラピーをより良くする企画を考え提案します。



吉野町立認定こども園

わかばこども園

～木とふれあい、木に学び、木に生きる～ 吉野町の『木育』



森と遊ぼう

吉野町立認定こども園わかばこども園（幼稚園型3～5歳児）では、森林インストラクターや地域おこし協力隊と連携・協働して、ふるさと吉野の森や神社等をフィールドに「森と遊ぼう」という園外活動を年に5回程行っています。

●年間計画 ※平成29年度

第1回 6/29(木)

「阪口さんの森に入ろう～夏～」

第2回 10/10(火)

「阪口さんの森に入ろう～秋～」

第3回 10/25(水)

「木や木の実を使って作ろう」

第4回 11/6(月)

「龍門の滝を目指そう」

第5回 1/19(金)

「ハチコ谷を登ろう」



吉野町立認定こども園

よしのこども園

木と遊ぼう



●「森と遊ぼう」のある1日

9:30

森へ到着（園からバスで10分程度）
森林インストラクターと協力隊の紹介。
森林インストラクターから森での約束事を聞く。

9:45

森で遊ぼう（サーキット）

①ハンモック体験・崖登り

②竹の滑り台

③丸太のシーソー・橋渡り

3つの縦割りグループに分かれて①～③をローテーションして遊ぶ。

10:15

休憩

10:30 森のおじさんの時間

『ズームアップを探そう』

チームに分かれて、木の葉や草花の写真と同じものを森の中で探す。



見つけたものを発表。

11:00

七タの竹を切る。

森林インストラクターと協力隊が切り、子どもたちが竹にくくったロープを引っ張って倒す。



11:20 ふりかえり

帰園準備・挨拶

11:30 帰園・給食



吉野町立よしのこども園（幼保連携 型0～5歳児）でも、地域おこし協力隊と連携・協働して、木のおもちゃ

やかんなくず・木の玉ボールなどで遊んだり、木材や自然物を使った工作をする「木と遊ぼう」という活動を年に4回程行っています。

●年間計画（※平成29年度）

6月 「木にふれて遊ぼう」

～木のお話①木は何を食べるの？～

9月 「たたき染め」

～木のお話②杉と桧の違いって？～

10月 「秋のトンネル作り」

12月 「楽器を作ろう」

～木のお話③木の音について～

わかばこども園 園長 中山 智美先生



「森と遊ぼう」では普段着に着かない子が落ち着いたり、いつもと違う子どもたちの一面に気づきます。高いところにある橋をわたったり、急な坂道を登ったり、最初は不安できなかった子ができるようになったときの成功体験による自信の表れは園内生活にも出てきています。以前よりも友達との関わりを持つようになった子や、園内に木工コーナーを設けたことで、年中児が年長児に手伝ってもらって木でものづくりをしている様子が見られることもあり、今では色々な子どもたちの成長を感じられる取組になっていっていると思います。

森林インストラクター

阪口 榮治さん



「森と遊ぼう」は平成24年に、その時の園長先生から「田舎の子たちなのによく転ぶんです。」という相談があったりしました。最初は森の中で遊ぶことで体力をつけ、体幹を鍛えようという目的でした。先生たち自身も森で遊ぶイメージがあまりわかりかねいところからのスタートでしたが、森の下見を繰り返して、アイデアを出し合い、年々プログラムが充実してきました。連携の輪も、地域おこし協力隊も加わり、園との連携・協力が進化しています。森の中で園児と楽しく活動しています。

